

「神さまの宿題」

敬和学園創設者 太田俊雄物語



1911年、岡山で石屋の子として生まれる。

旧制中学岡山黉(おかやまこう)の二年生の時に青年英語教師の柴田俊太郎と出会ったことが生涯を決定づけた。

五、六人の生徒たちが柴田俊太郎に課外授業を願って、ロングフェローの詩「矢と歌」を習った直後のことだった。太田は柴田に呼び止められて、「三俊」すなわち「天下の三人の俊秀」を知っているかと問われた。

「三俊」の第一は、秋吉台の石切り場で囚人たちの更生保護事業を行なって聖人と言われた本間俊平。第二は、型破りで豪快な教師であった柴田俊太郎自身。第三は、「君だ、日本一の生徒だ、しっかりせえ」と太田を激励したのであった。

太田はそれまで、父親が石切り職人であり、社会的地位も低く、貧乏生活をし、無学であることに劣等感を懐いていたが、柴田の励ましの言葉に感激し、その晩は夜も眠れず、期待に何とか応えようと決心した。

卒業後、太田は英語教師を目指して上京。法政大学夜間部で苦学する中でクレーマー宣教師と出会ってキリスト者となった。その後、青年教師として、青森や大阪などの旧制中学で英語を教えた後、戦後はノースセントラル大学で神学を学び、帰国後、日本聖書神学校の教授となり、宗教教育論を担当する。その後16年にわたって敬和学園高校の初代校長として教えた。



敬和学園大学

「神さまの宿題」とは、太田の著書の一つで、父母から受けた無形の教育を後年振り返ってかみしめたものである。クリスチャンではなかった父母の言動のどれも、聖書の神を直感的に知っていたとしか思われないものであった。神はすでに、キリストと出会う前から、太田の人生を導いておられたのである。

今回は、新潟にミッションスクールとして名高い敬和学院を創設した太田俊雄の生涯をご紹介します。

記

1. 日時:2017年9月8日(金) 10:30 AM より
2. 場所:ゴスペルホール(電話 026-295-6705)
3. 講師:尾崎富雄(ゴスペルホール代表)